



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

96.4.4 No. 4371

## 知花さんと連帯し 軍用地を取り返せ! 3/29-4/1 沖縄 反戦クラブ報告

三月二十九日から四月一日にかけての沖縄現地闘争を、動労千葉派遣団九名は元気いっぱい闘って来ました。

今号は、知花昌一さんの土地の軍用地使用期限切れ(四月一日)をめぐる闘いを中心とした、反戦共同委員会の沖縄反戦ツアーについて、速報にて報告いたします。

(くわしい闘争報告と、派遣団の感想文については、別冊にて報告いたします。)

### 3/29 羽田出発

動労千葉派遣団は、羽田で全国労組交流センター、部落解放同盟全国連、婦人民主クラブ全国協をはじめとした、反戦共同行動委員会の仲間と合流し、一路沖縄へむかう。羽田空港での警備がものしい。



(発言する、知花昌一さん)



夕方、那覇に到着。ホテルにて、今回の闘争の意義について再確認、行動の諸注意について意志統一をおこなう。

### 30日 基地めぐり 反戦集会

三〇日は、朝から昼にかけて、丸木位里、丸木俊さん作の「沖縄戦の図」がある、佐喜眞美術館、普天間や喜手納の米軍基地、集団自決があった、読谷村のチビチリガマなどをめぐる。あらためて、沖縄戦のこと、基地の島・沖縄の現実について思い知らされる。

夕方、「知花さんと連帯し、軍用地をとりもどそうー沖縄の未来をここから、三・三〇集会」に参加。会場の沖縄市民会館は人でいっぱいです。

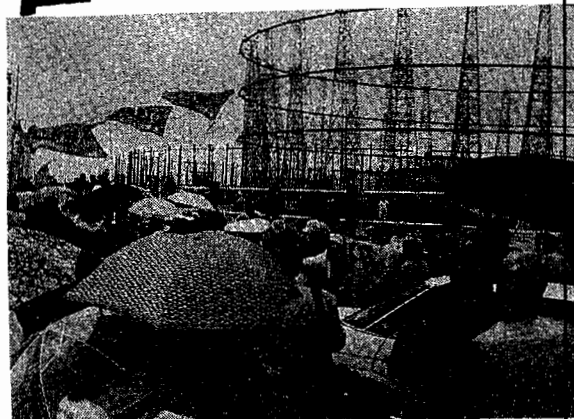
日本キリスト教団・社会委員会の小田原紀雄さんによる「破防法と沖縄闘争」、そして、知花昌一さんの講演を中心とした集会は、沖縄労組交流センターの仲間が基調報告をおこない、基地で働く労働者、学生、女性、宮古(地域)からの発言など、島ぐるみで闘う沖縄の心につれ、たすばらしい集会でした。

### 31日 命と宝の争い

三十一日は、昼から知花昌一さんのお義父さんの土地でおこなわれた、反戦地主会・一坪反戦地主会主催による「命どう宝(命こそ宝) コンサートヨウんたんざ」に参加。島唄、ロック、フォーク、子供達によるエイサーの踊り、そして、各界・各人土からの発言と、明るく闘う沖縄の民衆の底力を示していました。  
「三月三十一日(今日)、米軍用地になつていく私の土地の使用期限が切れます。四月一日には基地の中でおじいさんの追悼とお祝いの集会をおこないたいと思つています。皆さん、安保闘争をもう一度たたかきましょう」と知花昌一さん。

### 4/1 新たな闘いへ

四月一日午前零時、読谷村の楚辺通信所(象のオリ)の知花さんの土地を「国が不法占拠」する状態に。全員で象のオリにむかう、機動隊の過剰警備。当事者の知花さんすら中に入れようとしません。



(象のオリへむかう)

「沖縄が歩んできた五〇年は、自分の運命や未来すら決めることが許されてきませんでした。すべてが日本政府やアメリカに奪われ、戦争の道具として利用されてきた歴史そのものでした。今、この歴史を塗りかえ、奪われてきたすべてを沖縄に奪いかえすたたかいが始まったのです。土地と海と空、そして沖縄の未来を沖縄人民の手に奪いかえす時がいつにきたのです。私たちはこのような時代の到来に、喜びと誇りをもってたたかっています。知花昌一さんの期限切れ(四月一日)をめぐるたたかいは始まりですが、決定的なたたかいです。沖縄の未来をかけて、軍事基地の全面撤去をつくりだしていくという事です。そのためにこそ、沖縄の力をここに集中し、この歴史的なたたかいを共に作りだしていきましょうー」(三・三〇集会呼掛け文) 第三次安保・沖縄闘争の大爆発をかちとろうー最後に派遣カンパありがとろとろいきました。